

令和4年度 第2回磐田市消防庁舎整備検討委員会 会議録

開催日時 令和4年5月17日（火）
午後3時00分から午後3時40分まで

開催場所 磐田市役所本庁舎1階第1会議室

出席状況 委員（8名）
副市長、消防長、総務部長、危機管理監、企画部長、建設部長
経済産業部長、資産経営課長
事務局（5名）
消防次長兼消防署長、消防総務課長、特命参事、消防本部部付主幹
消防計画推進専門官

議事内容 1 消防庁舎建設候補地調査業務委託について

◇◇◇・・・◇◇◇・・・◇◇◇・・・◇◇◇・・・◇◇◇・・・◇◇◇・・・

会議内容

開 会

議長 委員長

議事1 消防庁舎建設候補地調査業務委託について

（委員長） 本日、議論する内容は、基本計画の構成で、「第3 建設予定地の選定」と「第4 建設予定地の概要・状況」を一つに合わせることで、複数候補地の状況を至急調査する必要があることから、この調査委託を実施するには、まず候補地を数か所絞り込む必要があるため、消防庁舎建設候補地調査業務委託について、議題とする。

最初に、「候補地の考え方について」事務局から説明をお願いします。

（事務局） 候補地の考え方について、自然災害時拠点型を選択し、各種災害出動において市内を効率よく包含するためには、東西に極端に偏ることのない位置に新庁舎建設予定地を選定する必要があるため、東名高速磐田インターチェンジと主要地方道磐田インター線を中心として検討している。

最も重要な位置の考察については、ICからの距離が概ね1kmの範囲であることとした。災害時には、東名高速道路が緊急輸送路で

あることや緊急消防援助隊の応援、受援の観点から、より近いことで利点が多くなるということ。

また、市域の東西と見付北地区を網羅できていることや、市域を南北に縦断し、主要な東西道路と接続する磐田インター線へのアクセスが容易であることは収容率が8割となる市立総合病院への救急搬送と、搬送後の救急車がすぐに資器材や燃料を補給して体制を整えられるという利点もある。

この位置であれば、出張所となる現庁舎と南北から見付地区を網羅することもでき、さらに、防災拠点施設としては強固で平らな地面であること、そして、今後も増加が見込まれる資器材や車両の大型化、災害対策に必要な施設の建設や人員の受け皿となり得る面積として、10,000 m²程度の候補地を求めることができる。

このほか、住宅地域に近接しないことで、音の心配なく様々な訓練ができる環境であることを候補地の考え方としている。

《質疑応答》

(委員) 「住宅地域に近接」、大小別として住宅は点在するので、書き方を「住宅密集地に近接しないこと」にしてはどうか。

(委員長) その他は、「住宅密集地でないこと」として、(1)の詳細は削除。次に候補地について説明をお願いします。

(事務局) 候補地について、地図も併せてご覧いただきたい。

候補地の考え方で述べた条件を踏まえてAからEまでの5つのエリアで6箇所土地を選定した。

Aは、磐田市見付地内、面積は約9,000 m²、接道道路の幅員は9m、その北側には約10,000 m²の拡張余地があり、西側が山林傾斜地、道路南側にはまとまりのある住宅地がある。

Bは、磐田市大久保地内、面積は約12,000 m²、接道道路の幅員は8m。平坦な土地ではあるが中央に水路があり、三角形に近い形状になる。東側に4,000 m²ほどの拡張余地がある。

Cは、磐田市大久保地内、面積は長方形の約13,000 m²、さらに北側に16,000 m²ほどの拡張余地がある。接道道路の幅員は9mになり、土地は段差があり切土が必要、東側が傾斜地となっている。

Dは、磐田市大久保地内、面積は約18,000 m²、直接の進入路がなく幹線道路から20mほどの高低差があり、進入路の確保とその長さが課題となる。

Eは、磐田市見付地内の2箇所で、1箇所は四角状で面積が約18,000 m²、他の1箇所は三角状で面積は同じく約18,000 m²、進入路

の幅員や高低差などが課題となる。

候補地の説明は以上となる。

《質疑応答》

(委員) インター線はバイパスを過ぎると、渋滞が激しくなるが救急活動など大丈夫か。迂回路を見つけ出しておくことも必要である。

(事務局) 現状においても、出動時の使用道路としての頻度は高い。さほど問題は無いと考えている。

(委員) 接道などの進入路造成なども込みで調査委託するのか。

(事務局) その通り。

(委員) どの候補地でも住宅があるので、収用移転が必要になるのではないか。

(事務局) 収用移転は必要になるかもしれないが、候補としている敷地面積に余裕があれば、住宅を外して考えることもできる。

(委員) Bの水路はどのような対応を考えているのか。

(事務局) 車両が乗っても大丈夫なように、ボックスカルバートでの改良が基本となるが、かなり費用がかかる。東西で分けて配置するなど、敷地内で開路として、水路付替えが可能なら最も安価な対応になる。

(委員) 委託業務にどこまでのものを求めるのか。

(委員) 消防の考え方が最も大事になる。

消防で進入路の在り方や形状などの考えをまとめ、業者と打ち合わせを行うことになる。(中央分離帯の問題も提起すべき)

(委員) 高低差がある場所は、どの程度不利なのか。

(事務局) DやEの場合が考えられるが、消防の場合、大型の緊急車両となるので、進入路の引き込みを長くして本線に出るのなら、位置を遠くしてでも、直接本線に出ることの方がメリットは大きいと考える。

勾配は通常8%であるが、大型車両優先で考えれば6%程度にすべきではないか。(100m進んで6m上る勾配)

(委員) Dの高低差20mは問題となるのか。

(委員) Eは北側を拡幅していけば進入路として活用できると考える。

(事務局) 敷地東側に直結することはできないため、敷地北側まで進入路を延ばし旋回スペースを設置することで対応できると考える。

<議了>

閉 会

(事務局) 今回、審議した6箇所の候補地について、調査業務委託の発注の準備、基本計画の構成内容を詰めていきたいと考えている。

また、業務委託の際の業者選定や事務の進行について関係課と調整のうえ対応していき、ある程度の計画案がまとまった段階で、第3回委員会を予定している。

以上で委員会を終了する。

以上